

# 入賞作品

## 平成二十九年秋冬（九月から二月）の部

テーマ 「勝山観光の置き土産に、四季折々のもの」を詠む

選者 福井県俳句作家協会副会長

嶋田 洸石

勝山やまびこ俳句会代表

石畝 千恵子

特選 手操り機に今は糸なし初時雨

福井県福井市 村田 淑子

選評 昔盛んだった手操り機は、今は音もなく空回りしている様子を詠んでいると、思われる。初時雨という秋心がきいているよい句

特選 天守閣眼下四方の刈田原

福井県越前市 平井 圭子

選評 天守閣に登ると回りの景色が眼下に広がっている。折しも刈られたばかりの田がパッチワークのようだ。

特選 梅雨だもの雨も匂うさ清大寺

石川県白山市 南 政紀

選評 大きい清大寺の景を詠っている。伽藍に回りの木々に降る雨が匂うがごとくと美しい。

順不同

入選 はたおりき音を聞き入るあきごころ

京都府京都市 荒木 和美

入選 天を突く大仏殿や銀杏ちる

福井県鯖江市 惣次 美都子

入選 はたおりであつたかいふくおりたいな

福井県あわら市 大南 勇人

入選 大仏の胸に秋陽のあつまれり

福井県鯖江市 石井 友里

入選 はた織に吾が子いそしむ夏休み

福井県鯖江市 大南 光代

入選 緑田にそびえ立つのは勝山城

愛知県安城市 加藤 美陽

順不同

### 選評

観光で勝山に来られるかたが増えています。真剣な子供のまなざしが伝わってくるような句、天守閣より望む美しい勝山、その感動を五七五に折り込んで気持ちのおもむくままに、詠んで頂けたらと思います。